

## 10 協働・協創

- 
- (1) 「協創」の認知
  - (2) 協働・協創の実践
  - (3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価
-



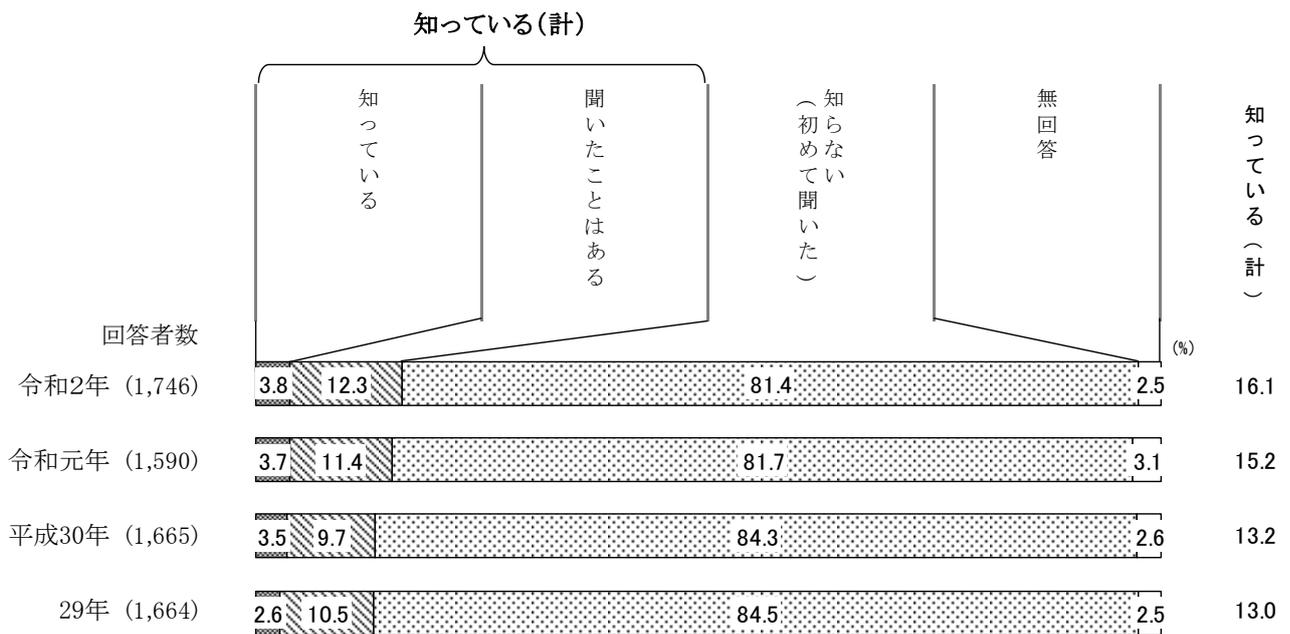
## 10 協働・協創

### (1) 「協創」の認知

■【知っている】は、前年より微増したが、依然1割台半ばにとどまる

問48 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。あなたは、この「協創」を知っていますか（○は1つだけ）。

図10-1-1 経年比較／「協創」の認知



「協創」について「知っている」が3.8%で、これに「聞いたことはある」(12.3%)を合わせた【知っている】は16.1%となっている。一方、「知らない」は81.4%を占めている。

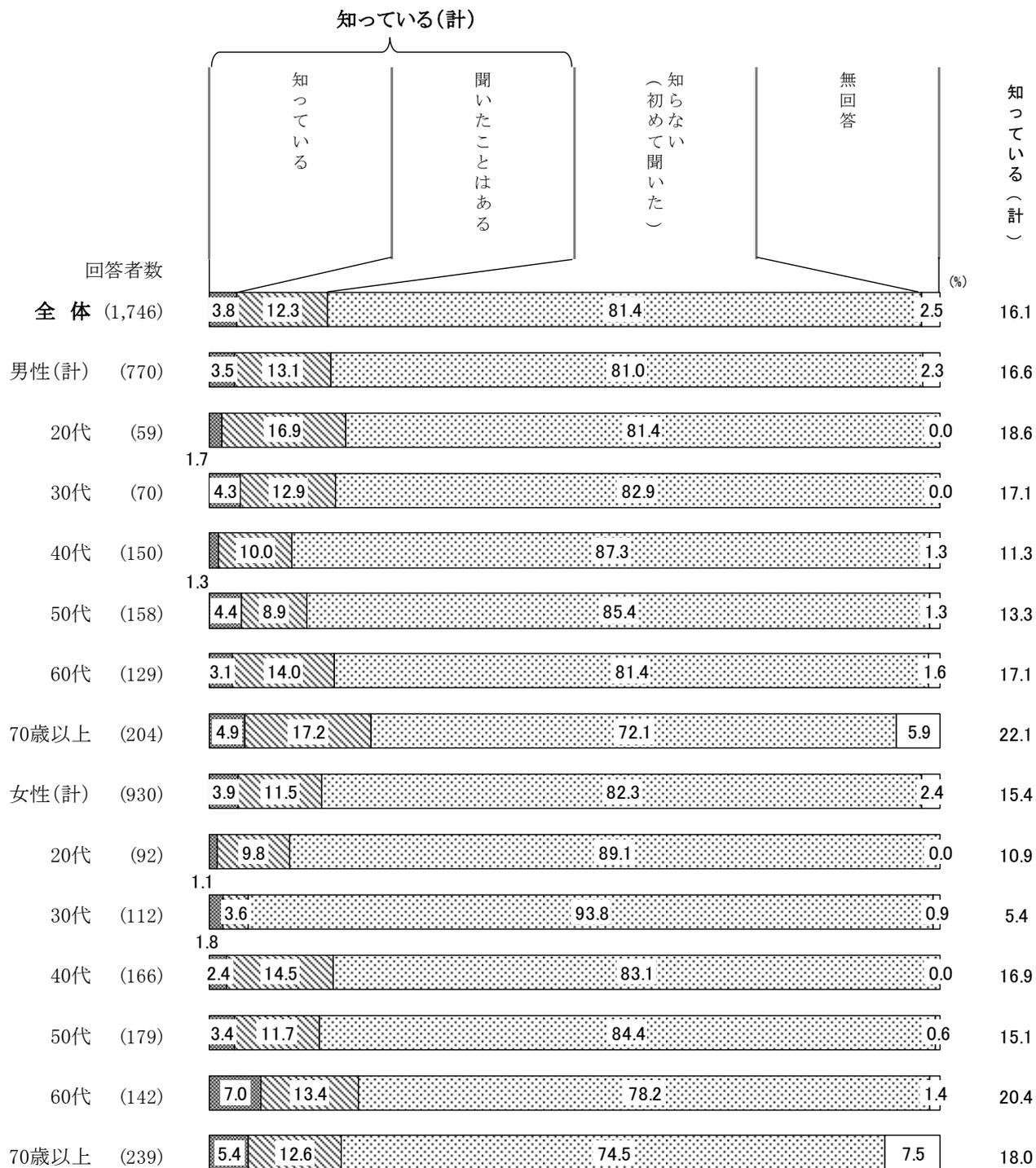
経年でみると、前回までと似通った回答分布ながら、今回の令和2年調査の【知っている】は16.1%で、前回の15.2%から0.9ポイントと僅かながら増加しており、平成29年の13.0%から3年続けて緩やかな漸増傾向にある。

第3章 調査結果の分析〈協働・協創〉

性別でみると、【知っている】は男性16.6%、女性15.4%で男女差はみられない。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性では70歳以上で2割強とやや高く、女性では60代で2割を超えてやや高いが、30代では1割未満と低くなっている。

図10-1-2 性別、性・年代別／「協創」の認知

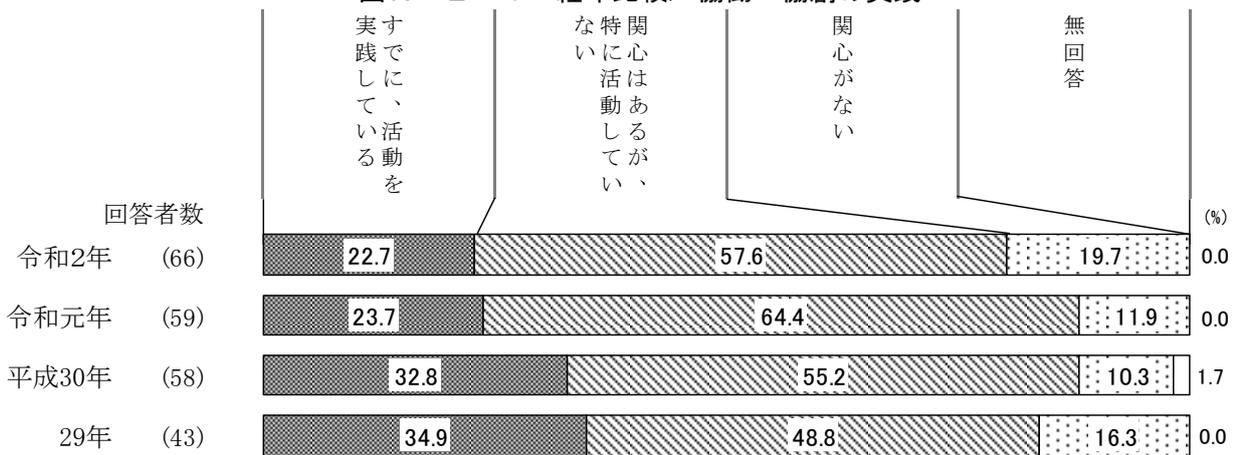


(2) 協働・協創の実践

■「関心はあるが、特に活動していない」が6割弱で多いも、「関心がない」が約2割に増加

問48で「1 知っている」とお答えの方に  
 問48-1 あなたは、区役所・区民・団体との協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）  
 （○は1つだけ）。

図10-2-1 経年比較／協働・協創の実践

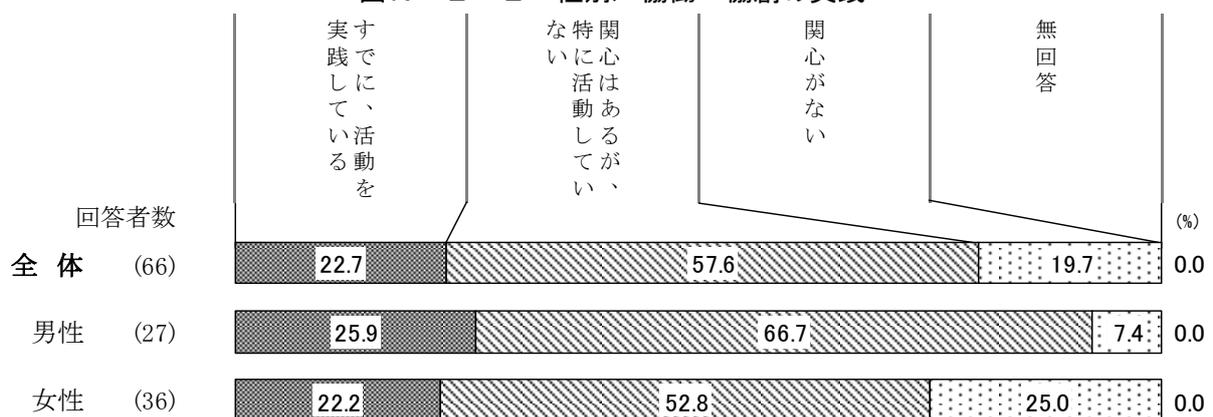


「協創」を「知っている」という人について、その実践状況をみると、「すでに、活動を実践している」が22.7%、「関心はあるが、特に活動していない」が57.6%となっている。一方、「関心がない」は19.7%となっている。

経年でみると、前回に比べて、「すでに、活動を実践している」にはほとんど変動はないが、2年続けて増加していた「関心はあるが特に活動していない」は前回より6.8ポイント減少し、「関心がない」が7.8ポイント増加している。

性別でみると、「すでに、活動を実践している」は女性（22.2%）より男性（25.9%）が僅かに高めな一方で、「関心がない」は男性（7.4%）より女性（25.0%）で高い。

図10-2-2 性別／協働・協創の実践

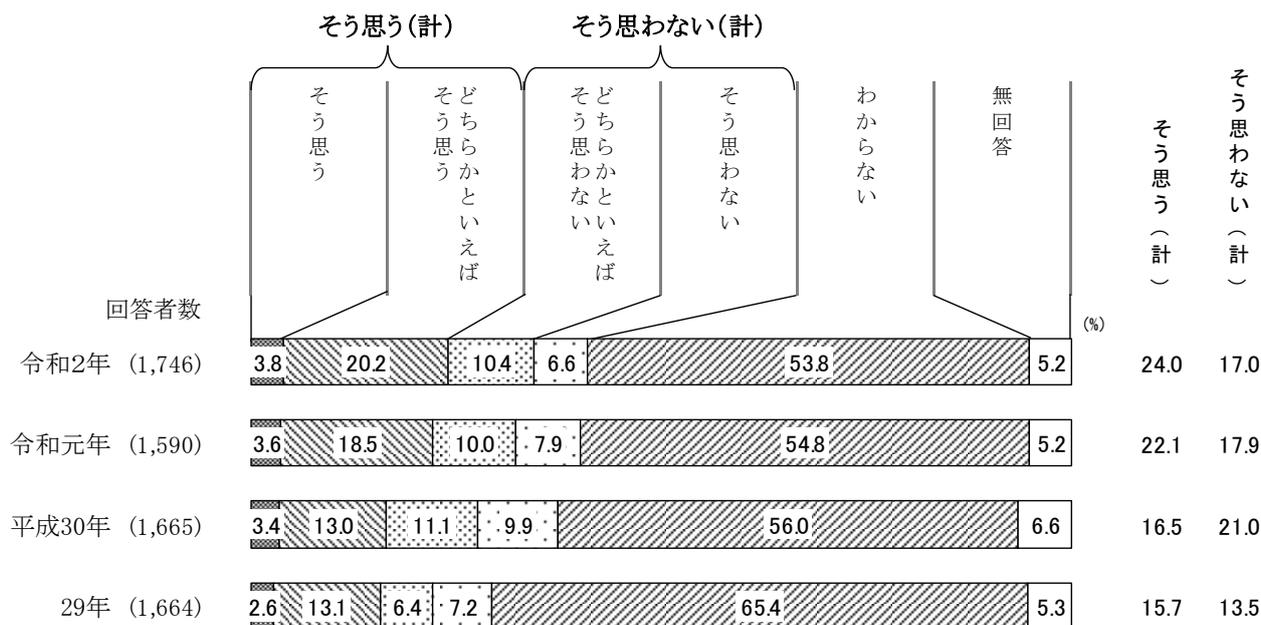


(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

■【そう思う】が2割台半ばで、【そう思わない】を上回って多くなっている

問49 あなたは、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）  
 （○は1つだけ）。

図10-3-1 経年比較/区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



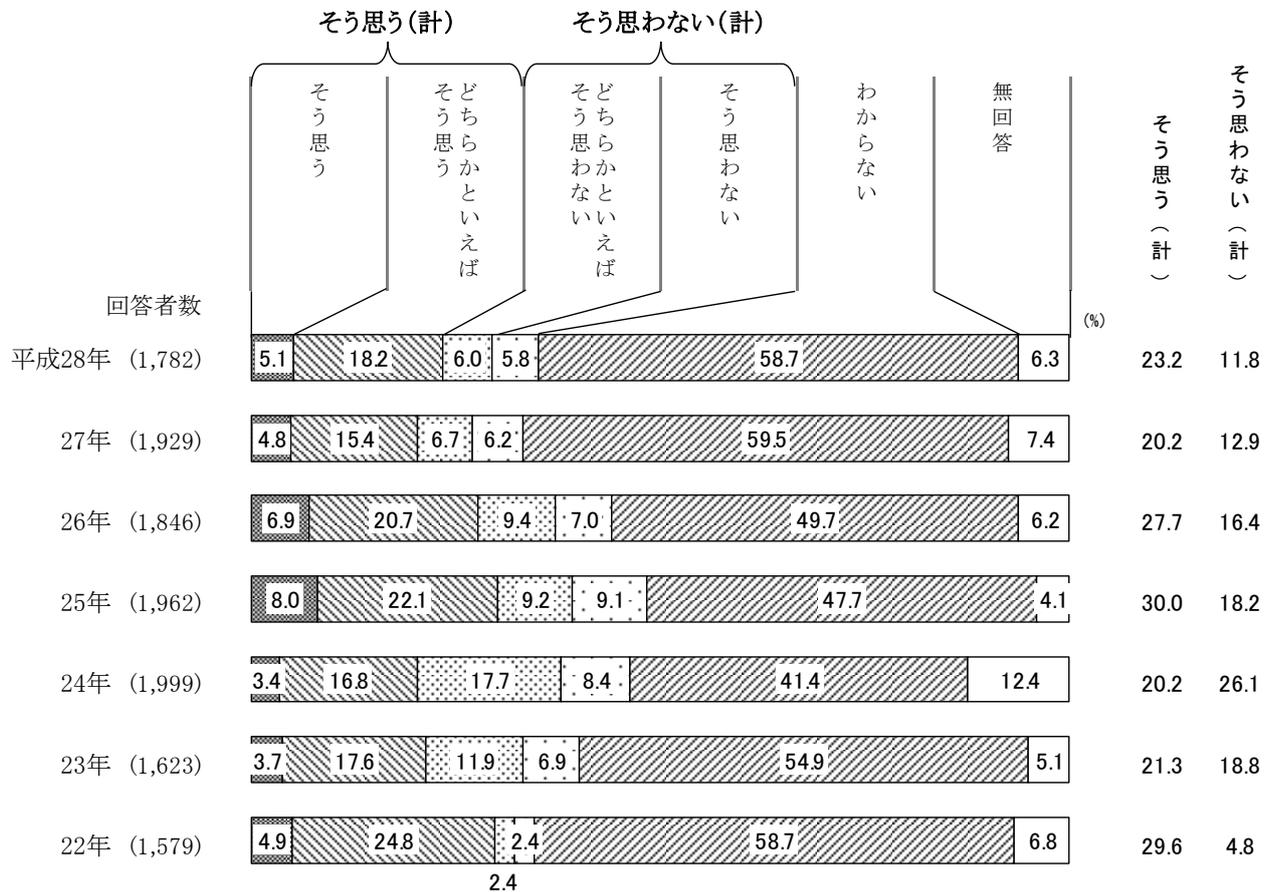
※ 平成30年度の設問文は「あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフなど、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか。」で、令和元年度には設問文の一部の表現が変わった上に、「子どもの貧困対策」が追加挿入されたが、令和2年度では、更に設問文の一部が、上記設問のように変更された。

協働や協創による事業が進んでいると感じるかについては、「そう思う」が3.8%で、これに「どちらかといえばそう思う」(20.2%)を合わせた【そう思う】は24.0%で2割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.4%)と「そう思わない」(6.6%)を合わせた【そう思わない】は17.0%で2割弱となっており、〈協働・協創〉評価の測定を始めて4回目の今回初めて【そう思う】が2割台半ばに達して、2割弱の【そう思わない】を7.0ポイント上回る結果となっている。一方、「わからない」は2年続けて漸減傾向にあるものの、依然として53.8%と過半数を占めて多くなっている。

今回の調査は、前回の令和元年とも設問文が部分的に異なるため、経年比較はあくまでも参考とすべきながら、【そう思う】という評価層が2割台半ばに達して【そう思わない】という非評価層を7ポイント上回り、3年続けて漸増傾向にあることは注目に値すると思われる。

参考／区役所・区民・団体との協力・連携（協働）した事業推進の評価

問 あなたは、区役所が孤立ゼロプロジェクトやビューティフル・ウィンドウズ運動など区民・団体と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか（○は1つだけ）。



※ 平成28年度までは、「協創」の部分にふれておらず、設問文も違うため、結果を単純に比較することはできない。

第3章 調査結果の分析〈協働・協創〉

協働や協創による事業が進んでいると感じるかについて性別でみると、【そう思う】は男性21.6%、女性26.2%で、女性の方が4.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「わからない」が多数を占める傾向は男女の各年代ともに共通しているが、【そう思う】の方が【そう思わない】を10ポイント程度以上上回って多いのは、男性では70歳以上に限られるのに対し、女性では、20ポイント以上【そう思う】が上回る60代を筆頭に、50代以上の3年代層となっている。

図10-3-2 性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

